

れる、言動に筋の通った人間であることが大事だと思う。

以上のような資質が、ニュータイプ

の教師に必要なと思う。
私自身まだ教員生活を始めたばかりで、この目標に到達できるのはどれだけ先かわからない。しかし、諦めることなく物事をしつかりと見据え、先輩の先生方のご指導を仰ぎながら、一歩一歩信頼のされる教師へと前進していきたい。

(いわき市立赤井中学校教諭)

ひととき

長沼 恪



いつも助手席をとられてしよげがちな小学五年の娘が、ほころんだ愛嬌をいつぱいにふりまいて、有頂天になつてはしゃいでいる。それをいつそう煽るかのよう

に。間に入った家内の顔にもいつしか笑みが生まれる。何年ぶりだろう。こんなにくつろいだり明るいひとときは。しかも、わずか五分間のドライブ、川原での煮炊きのあとの。
夏休みに入ると、一つ楽しい家族旅行をと、相談をもちかけるやいなや、「どうせ、お父さんなんかあてにならないんだから」と鼻息荒く一けりされる。それには負けじと勇み寄れば、子どもたちに「約束守ったことある」とたたみかけられ、返答の一言もない。
「わが家の父親は、いてもいなくても同じ、空気みたいなもの」と、いつもぼやかれる。そのたびごとに、「そんじやって……」と口には出すが、心の中では、「本当にすまない」と、後になつてしみじみと思う。良き先輩の先生方から、「家族を大事にしろよ」といつも言い聞かされる。そのたびに「はい」と、わかつたように返事を返す。
今年の夏は、最高の勤務地、檜枝岐。これが、また最良の避暑地ならんと、願う私の気持ちが天に届いたのだろうか。この夏に、暑さをおして他の地に出かけようとする望みが薄く、当地の近くで焼肉をしようという娘の提案でまとまった。大蔵大臣の乗り気の顔をうかがって、準備万端整えて心迷わずハンドルを握った次第。
家内が料理しやすいように、息子とかまど作り、娘は持つてきたトマトやジュースを冷やす係り。パチパチと炎



一家だんらんの楽しい「ひととき」を過ごす

が食欲をくすぐる。もう、なんとも言えない川原での箸のつき合い。
病身の娘は、せせらぎにつき出た岩にまたがって得意顔で肉をほおばる。いつもは少食の息子も清流の石に尻をおき、両足を冷やしながらか、これまた大口でパクついている。「もう腹いっぱいでは食えないよ。そんなに焼いて誰が食うの」をよそ目に、「私なんか、まだ食べてないの」と煙を立てる家内の食欲も未だかつて見たことがない。
箸の後は、小石を手にする。水の面に平たい石を滑らすように投げ合う。ここにきて初めて、父親の力が誇示できた感がある。巴御前もさすがに兜をぬいで私に花をもたせる。息子も親父

にはかなわないと降参する。

「おまえも、お父さんみたいにすぐなれるよ」と励ましのかけにちよつぱりと威厳を保ったひとときであった。ささやかで、しかも、短いひとときであったが、心から笑い合ひ、気持ちの許し合える最良のときであったように思う。

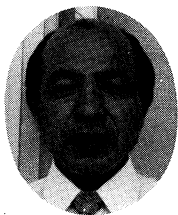
二人の子どもたちの言葉を借りれば、「よかつたね。お父さん、近いうにまたやろう」……。

(檜枝岐村立檜枝岐小学校教頭)

手造りの

プレゼント

河野 功



「先生、いま何か切つてんのかい」
久し振りに拙宅を訪れてくれたM君の問いである。彼はA養護学校を卒業した後、郡山市内の某中小企業で働く勤労青年である。
A養護学校在学中、クラブ活動で切